

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 ピース玉串店

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	20%	80%	学習時や活動時に全体で行えるようスペースの確保を行っている。	・高学年も多く、スペースをつくるため、プレイルーム以外にも別室による個人指導を行い、指導を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	100%			・現在は適切であり、今後も適切な人員を配置する為、募集を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			・入口段差前にスロープを設置。 ・児童用手洗い場に踏み台の設置。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		日々の朝礼、終礼により行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		結果を職員で共有し改善に努めています。	・職員会議による討議後、1年を通じて改善を行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		ホームページにて公開。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	連携機関や有識者からの評価を基に業務改善を行っています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	70%	30%		・1年に3回以上の外部研修を実施。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		ケース会議を行い課題に対しての支援方法を検討し、計画に取り入れています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		内容は適宜見直しを図っています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		職員会議により、職員全体で行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		児童の成長や季節、状況などを考慮して活動内容を決めています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	個人課題を用意し、取り組んでいる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			児童の成長にあわせて、保護者様と連携しながら支援計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		朝礼時に行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		終礼時や、日々の職員ノートにて共有している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		支援記録による、記載を行っている。	
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		毎月実施している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	70%	30%			

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			・児童発達管理責任者と担当指導員が参加。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		送迎時に担当の先生と話し、情報共有を行っている。	・月初めに電話連絡し、送迎時間の変更等確認を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				・現在は該当なし。 保護者様の依頼に応じ、整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%		・記録やその他書面を通じて。 ・必要あるときは会議や電話連絡。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				・現在は該当なし。該当次第行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		・研修を通じて、積極的に連携していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	80%	公園や、外出先で交流する機会を作っている。	・地域のイベントの参加等を通じてさらに交流できる機会を増やしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している				・業務や時間調整を行い、積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		連絡帳記載や、送迎時等に随時情報交換を行っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%			
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時に重要事項説明書を基に説明している。	・保護者様に満足いただけるよう、更に丁寧な説明を心掛ける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		日々の相談は送迎時や電話などで行っています。面談の希望があれば調整致します。	・口頭や文書を通じて行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	70%	30%	年1回保護者会を実施	・行事等の参加等を通じて行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		苦情対応は電話や面談で受付し、対応は迅速にお伝えします。苦情内容や対応の変更について職員に周知しています。	相談員様、市役所にも迅速に報告し、対応を行っています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		タイムラインやFBでの更新を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%		個人情報記載された書類は、鍵付き書庫にて管理を行い、外部に漏れないように努めています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		視覚支援他。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	80%		・機会があれば、事業所で開催し、交流を図ってきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	90%	10%	契約時に保護者様に説明。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		年2回実施。	消防署の方に来所していただき、訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		入職時に実施。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		他児や職員に危害を与えそうになった際に行う場合があると、契約時に説明。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	70%	30%	保護者様の指示に基づき行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		開所時に作成。	事例を交えて更新を行っている。